



活動寫眞のフヰルム

(附り 活動寫眞界の新發展)

迎月子

何と云つても今日此頃の興行物は、猶且活動寫眞に落を取られて居る。で、今度は鳥渡、多くの人に耳新らしさうな、フヰルムに就ての彼の是やを紹介しよう。

△活動寫眞を活用した故伊藤公▽

活動寫眞を廣告其他に利用するも、近年逐次展開して居るが、今迄の所で、我國で最も良く夫を活用されたのは、故伊藤公なのだ。故公爵が戦後

の對韓策に就て、一方ならない苦心をされた事は云はずもがな、皇儲殿下を我國へお迎へ申てから此方は、御身の上に就て、事の大小に拘はらず、多大の注意を拂はれた事も云ふ迄もないが、其中で、殿下の見學御旅行、御避暑御避寒、濱離宮其他へお成の時、杯は、大抵吉澤商店から技師を伴はれて、殿下の御行動を、一々フヰルムに收めさせて、韓國へ送られた。此フヰルムに依つて、殿下のお側には、故公爵が絶えず扈隨し参らせて、非常に鄭重な待遇を受けさせられて居らるゝ事を、目前接し参らす如に、見る事の出来た韓廷の人心が、甚麼に之に依つて融和されたかと云ふ事も明かだ。日韓併合の故障なく進んだのも、此フヰルムが功があった。と云ふので、活動寫眞界の一部では、私に以て此事を誇りと爲て居る。

△フヰルムの利用は頗る幼稚▽



是杯は、確かに後來の話の種になる事だが、そればかりではない故公爵は、哈爾賓の最後にも、臘氣ながら其姿をフヰルムの中に止められる。葬送の時にも其盛な行列は、フヰルムに残されて公爵家に傳へられて居る。却々活動寫眞と緣故の多かつた方の事だ。がくがくおひがいに我が國では鳥渡類のない事で、歐米のそれの如に、冠婚葬祭は云ふも愚か、外科の大手術とか、昆蟲の發育の模様とか

新黴菌を發見した場合杯の、學術的の方面にも、盛に應用されると云ふ迄には、未だ却々間がある。尤も寫眞師側では、其方面の發展策にも抜目がなく此間の雨宮敬次郎翁の葬儀の時に、二軒から撮影の申込をしたが同家では頼まなかつた。酒井伯杯はフヰルムに撮影する器械迄も購入された程、活動寫眞に趣味を持つて居られるが、令聞が歿せられた時の葬儀の模様は、フヰルムには残

されなかつた。之に依つても其他は推して知るべしで、今迄の途では、一二の新聞社が自社の廣告に利用するとか、各商店でも弗々廣告に應用される傾向が、現はれて來た位の、哀れな状態に過ぎないのだ。

△フヰルムの價値

其所で、何故這麼に利用の途が開けなかつたかと云へば、夫はフヰルムが高價からだ。一體活動寫眞の機械は、二百圓乃至三百圓も出せば一通りは揃ふ外國品を使へば五百圓以上要るのだが、今では内地製で充分に間に合ふ。新式のものが出来ても、見本だけ輸入すれば、跡は内地で揃へる事が出来るまでに、進んで居るのだ。雖然フヰルムは、輸入すれば普通のものでも、一尺三十五錢乃至五十錢は取られる。それが、内地で揃へて、背景や俳優杯に趣向を凝らすとなると、日本劇杯は一尺七十五錢乃至一圓位要るものさへある。で、一分間に映出すフヰ

延ばすのも、畢竟夫が爲めで、フヰルムは實に、此點から云つても、活動寫眞の生命なのだ。

△フヰルムは何故高いか

一體日本へ輸入するフヰルムは、佛國のバテーとゴーモン、伊太利のイタラの製品杯が最も多いのが、此中でもバテーの製品は、フヰルムの質が良く總體の調和も能く取れて居ると云ふので、輸入數の過半を占めて居るが、技術の點ばかりから云へば、イタラが稍々秀て居る如で、特に景色ものとか、其外の天然色を現はすものに就て、特色を發揮して居るで、バテーの映繪を百點とすれば、イタラが八十點ゴーモンが六十點位の段取とならうとは、黒人筋での評判だが、夫等の何れもで製造されるフヰルムは關稅と運賃を除いて一尺平均廿五錢、天然色を附けたものが三錢増、極彩色が十錢高と云ふ見當だ。何故這麼に安く出来るかと云へば、バテー杯では一つ

ルムの長さは、卅五尺乃至五十尺だから、一時間映寫さうと云ふには、二千尺乃至三千尺の長さが要る。其間に多少休憩時間を掛くとしても、興行として二時間以上も映寫さうと云ふには、少くも五千尺の準備が必要で、夫が一尺五十錢宛とすれば二千五百圓多割安物を交せた處で、二千二十四百圓は要る。で、是丈のフヰルムを、一度や二度映寫して見せた位では、或も收支の勘定は附かない。で、興行師側では地方巡業を遣ると云ふ順序となるのだ。が、此巡業が却々思ふ如には行かないもので、一場所宜くても二場所も續て悪ければ、元も子も失くなして丁度。興行上に充分の経験のある向でも、兎角に失敗が多いので、フヰルムを撮影する、吉澤横田M.バテー杯では、一つでも多く、都會の常設館を占領しよう夫も場所の宜い、客足の多い所を、多い所をと覗つて居るのだ。福寶堂杯でも、市中に八ヶ所の常設館を持つて居る外に、淺草公園其他の常設館へも手を

の原板の繪を、少なくも八十本は焼附ける。而して夫が當つたとなると、何千本でも同じものを焼附けて、あらゆる方面へ輸出する。所謂數でこなす方針なのだから、最初は何千何萬と云ふ大金の要つたフヰルムでも、數が出るから安く上ると云ふ譯なのだが、日本では夫が出来ない。大抵は一枚の原板が諸方へ轉々して、映寫されて居るのみだ所で、其原板を揃へるのに、ネガチープ(撮影)とボシチープ(焼附)の爲めに、二通の生フヰルムが要る。で、此生フヰルムは、セルロイドの原料に寫眞膜を引いたもので、一本二百尺位になつて居るものだが、此品は未だ日本では出来ない。悉く歐米から供給を仰いで居るのだが、日本での取引値段は、一尺十二錢から十四五錢位迄あつて、大抵は十三四錢のものを用ひて居るから、一尺のフヰルムを揃へる爲めには、撮影と焼附とに、二尺の生

フキルムを使つて、之ばかりでも廿七八錢は要る。其外に薬品代や技師や俳優の手當杯も要る。加之に數が少ないと来て居るから、一尺四五十錢より下では、出来ない勘定となるのだ。

△生フキルムの需要一ヶ月十五萬尺△

が、日本出來のフキルムの焼附額の少ないのは需要が少ないとからばかりでなく、吉澤なり横田なりM.バテーなり。撮影す一方では營業にならないので競争的に常設館を占領して居るから、新しく撮影したフキルムは、夫に依つて充分利益を見た後でなければ、他へ賣る事を好まない。それには、何れも斯界に覇を爭つて居る手合だから、一方で甚麼新しい宜いフキルムを、捕らへたからと云つて、頭を下げて焼増しを爲て貰ふと云ふ事を、敢てしない。競爭的に、人氣に投じるもの、人氣に投じるものと、捕らへ出して居るのだ。で、十年前迄は撮影す

といつても、ほんの撮影だけで、撮影したものは直ぐ亞米利加杯へ送つて、修正して貰つて漸く物にしたものだのに、今では毎月撮影する爲めに、約十五萬尺の生フキルムを輸入する。勿論之は、撮影と焼附の兩方に使ふのだから、フキルムに出来上るのは、七萬五千尺の勘定だが、此品が頗る感光の早いもので、ネガチーブにもポシチーブにも、鳥渡一割以上に減入が立つ。で、實際フキルムとなるのは、六萬尺を餘り多く越えないだらう。何故かと云へば品の悪いのになると、鏡玉にかけない内に、感光して居て役に立たないのさへあるからだ。が、亞米利加のイースマンの生フキルムは、比較的確實なものだと云ふので、十五萬尺の内の七分は同社の品で、之は銀座のジャパン、ブレッス、エデエンシーが、一手で輸入して、吉澤でも横田でもM.バテーでも福音堂でも、同社の製品は悉く其所から供給を受けて居る。残りの三分は吉澤では倫敦支店の手で、横田

では豫て特約のある佛のバテーから、直輸入を遣つて居るのだが、フキルムの撮影は其外には、東京では淺草公園の大幸館の寫眞師の齋藤幸次郎と鶴淵寫真店。

で、這麼工合で、寫眞師が興行を兼ねて行くと云ふ現状だから、フキルムを撮影するにも、外國の如に軍艦を出動させるとか、熊々探検隊を造るとか、或



の清國の福州を、得意として居るもの位なものだ。

方面の鐵道全線を借りるとか、自働車を爆發させるとか、獅子を殺すとか云ふ如に、何千圓も何萬圓も其設備に投すると云ふ事は、近き將來には企て及ぶ

△撮影の技術は未だ幼稚▽

可らざる話だが、今處では客寄せ手段の小羅合にばかり忙殺される結果は——活動寫眞の字義の上から云つても、畫面は絶えず活動し、變化して行つてこそ、妙味が深いのに——日本劇の如な、最初に家の門口が現はれると、フキルムは幾十尺も廻轉した後で、漸く人物が現はれる、其間は下座の囃子で繋いで置くと云ふ如な調子のものが、多く撮影される尤も、演劇場は實際の演劇其儘を撮影しては到底物にならないから、鏡面の前に立つ俳優は、其邊の手加減をするし、撮影技師もフキルムを伸縮して、成るだけ場面の變化に苦心はして居るが、日本劇其物が既に活動寫眞としては、ダレ場の多いものなどから、止むを得ない。雖然、昨年は吉澤の手で、大洪水や、河内の進水式や、アイヌの熊祭、同商會の倫敦支店で英帝戴冠式の盛儀場が、撮影されたのは、確かに喜ぶべき傾向なのだが、撮影の技術は、未だ幼稚と云はなければなるまい。佛のバテー

場では、毎年々技師を派して、我國の風物を撮影するが、一遍でも撮影の註文を爲て寄越した事はない。偶にフキルムを買入れる事があつても、焼増などは頼まない。乾度原板を手に入れて、自分の工場で修正を爲てから、物にする方針を取つて居るさうだ。

△フキルムの交換賣買▽

孰れにしても、日本ではフキルムが高いのと、斬新奇抜なものが、容易に手に這入らない——外國からドシく直輸しやうとしても、風俗好尚が違ふので、向ふでは好いと思つて送つて來ても、此方では風俗取締の上から、映寫す事を禁じられて丁ふ事が往々ある。京濱の届指の寫眞材料機械商が、度々直輸を試みては失敗するのも、夫が爲めなのだから、結局此方から出掛けで行くか、向ふに支店とか出張員でもあるものでなくしては、夫も巧くは行かない——

一目貫の場所に小屋は持つて居ても、知名な活動寫眞師と共同しなければ、思ふ如な興行は出來ない。寫眞師と共同すれば、利益の大部分は持つて行かれること云ふ始末であつたのが、漸つと此頃、寫眞師の手を藉りずとも、興行の出来る機關が出現れた。夫は外でもない、外國では決して珍らしくない事だが、日本ではシャバン、ブレッス、エデンシーで、初めて此春から遣り出した、フキルムの交換と云ふ事だ。同社では平素國內の重な活動寫眞師に、多額の生フキルムを供給して居るので、夫を縁故に吉澤横田Mバテー福寶堂場から、交換的に古フキルムを引受ける。而して、間に大等の向々のフキルムの交換の媒介もすれば、新に活動寫眞の興行を爲よう云ふ向には、其フキルムを賣りもする。古フキルムと云つても、餘り澤山使つてない、立派に興行用になるものが多いばかりか、吉澤横田Mバテー福寶堂場で、直輸したものや、夫等の手で撮影した各

種のフキルムか、一手に集められて居るのだから、フキルムの選擇は思ふが儘で、加之に値段は新しいフキルムが、一尺安くとも四五十錢するのに對して五錢乃至三十錢位と云ふ安値なのだ。で、是場は確かに、我活動寫眞界の發展を扶ける、新事業と云はなければなるまい。夫許ではない同社では、集まつて来るフキルムを利用して、學校の諸會合、種々の宴會、園遊會の餘興場に、出張映寫も始めて居るが出來ると云ふので、是生徒に觀覽を禁じて居つた地の小學校場では、活動寫眞は教育上に悪影響を及ぼすと云ふのに、今度は輕便にフキルムの選擇が出来て、加之に僅少の費用で、教育的の娛樂を與へる事が出來ると云ふので、市中は勿論近縣からも、續々出張の申込があるさうだが、出張費用は、市内が技師辯士附で十圓以上、地方は之に出張實費を加へたもので、映寫す時間とフキルムの數に依つて、等差があると云ふ話だ。